

令和6年度第3回長浜市未来こども若者会議 要点録

- 1 日 時 令和6年11月6日（水）10:00～11:00
- 2 開催場所 長浜市役所1階 多目的ルーム1～2
- 3 出席者 ○委員（12名）
西川会長、宮本副会長、鎌田委員、中澤委員、梅田委員、山岡委員、
柏崎委員、中川委員、山内委員、澤委員、荒井委員、脇坂委員
○市の出席者（事務局）
未来創造部：中嶋部長、村崎次長（局長）
未来こども若者局：藤田管理監、山口管理監、為永管理監
未来こども若者課：小谷課長、服部副参事、茂森副参事、小川副参事、段主査
こども家庭支援課：岸下課長、伊吹課長代理
こども家庭支援課家庭児童相談室：森室長
健康推進課：前田課長、守本課長代理、濱田副参事
幼児課：奥村参事、稲葉課長代理 教育委員会事務局：高山次長
Next-i株式会社：松浦氏
- 4 欠席者 大橋委員、佐々木委員、水上委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 内 容

<次第1. 開会>

○（事務局）

ただいまから令和6年度第3回長浜市未来こども若者会議を開催いたします。本日は、委員の皆さまにおかれましては、何かとご多用のところ本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議の終了予定時刻は午前11時を予定しております。円滑な議事運営につきまして、委員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

まず初めに、本会議は「長浜市未来こども若者会議規則」第5条第3項におきまして、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないこととされております。本日、会議の委員15名のうち12名のご出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。また、本会議は「附属機関等の会議の公開等に関する要綱」に基づき公開となっており、傍聴される方はまだいらっしゃいませんが、あらかじめご了承のほど、よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、未来創造部の中嶋部長からご挨拶を申し上げます。

<次第2. あいさつ>

○（中嶋部長）

これまでの会議で委員の皆さまにたくさん書いて、貼っていただいた付箋などから、今回計画の概要をまとめることができました。関係職員も相当苦労しましたが、本当に笑顔というキーワードを中心に、長浜らしさを十分出せていけるとっております。これも委員の皆さまのおかげだと思います。ありがとうございます。この計画は、今後5年にわたって長浜市のこども若者施策、そして大人がどう関わっていくかを導いていく大変大切な指針となります。具体的に、この計画に書いてあるから優先して考えていくとか、あるいは実行できる、そして予算とか財源を確保していくということもあろうかと思っております。本日の概要を見ていただいて、皆さまの思いがしっかり反映されて、抜けがないかなどをご確認いただきながら、様々なご意見をいただけたらと

思います。本日は大事な会議になろうかと思しますので、よろしくお願いいたします。

<次第3. 議事>

○（事務局）

それでは次第3の議事に入ります。議事の進行につきましては、「長浜市未来こども若者会議規則」第5条第2項の規定に基づき、西川会長に議長として進行いただくことになります。西川会長、よろしくお願いいたします。

○（議長）

それでは議事を進行します。今回の議事に関しましては、1件のみとなっておりますので、午前10時50分頃まで各委員の皆さまと議論検討を進めてまいりたいと思います。円滑な議事運営にご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、まず議事の(1)について、事務局から説明をお願いします。

<議事(1)（仮称）長浜市未来こども若者計画の素案について> 資料1 ～事務局から説明～

○（議長）

ただいまの説明について、委員の皆さまのご意見やご質問がありましたらお願いします。

では私から、大人と一緒に楽しんで成長していこうというのは、こどもまんなか社会のすごく大切な捉え方で、なかなか他の自治体はここまで描けてないと思います。みんなが成長できるということが基本理念としてあるのは、もう本当に素晴らしいと思います。計画全体のKPIとして、感じ方の例に、こどもと一緒に笑う回数が増えた、これはいいと思いますが、こどもの成長が嬉しいではなくて、こどもと一緒に成長できた、という方が、よりこの理念に近づくのではないかと思います。

1つ質問で、成長を測る指標として「長浜が好きだ」の割合とありますが、長浜が好きになることによって成長につながる指標となることについて説明をお願いします。

○（事務局）

長浜が好きだ、親しみや愛着があるという指標を取り入れたのが、若者はこれまでから、高校を卒業して大学や専門学校へ行く際に、一旦長浜を離れる学生がたくさんおられます。昔は一度離れた学生が就職をする際に、一定の人数が長浜に戻って来たのですが、最近は戻って来る人数が少なくなっておりまして、それが若者人口の減っている大きな要因になっていると分析しております。戻って来ない1つの理由として、高校を卒業して外に出る際に、長浜のことを十分知らないうちに出て行ってしまうこどもたちが非常に多いということが分かっております。今年、中学生トークで中学生の皆さんと一緒に竹生島に行きましたが、竹生島を初めて訪れた生徒は8割でした。この長浜にたくさん良いところがあり、いろんな人がおられ、いろんな企業がありますが、それらに触れないで外に出てしまうというのが、残念ながら戻って来ない要因の1つかなと考えております。そこで今回、成長というアプローチで、長浜が好きだという、少し違和感があるかもしれませんが、ここを大事にして、できるだけこども若者が地域の人であったり企業であったり、イベント等に参加し関わっていただく機会をたくさん作っていききたいということで、それに対する指標として、この地元が好きだということで設定をいたしました。

○（議長）

今のご説明を聞いていると、3つのアプローチの指標になりそうですね。長浜が好きだからイコールも安心に繋がるし、好きだから希望だしっていう。この3つのアプローチの指標にして、

もう1つ成長にふさわしいもの作った方がいいなと思いました。

○（委員）

このアプローチと施策の方向性っていうところを見比べた時に、成長とその成長の横の施策の方向性っていうのが、少しピンとこないというか。例えば、成長のところに地域を誇りに思い、愛着を深める機会をととのえるって言われると、なぜそれが成長なのだろうと思いました。施策のパッケージにしても、体験ができるとか、いろんなことに関われるっていうのは、成長にも見えますが、成長じゃなくて、長浜が好きとか楽しいとかになるというか、整合性のとれる表現の方がいいのかなと思います。

○（議長）

成長というキーワードは昨年のワールドカフェで出てきましたね。

○（委員）

この計画の概要は、わかりやすいと思います。これまでから、会議を重ねるごとに保育士の人材不足ということが何度も話には出ていると思いますが、安心のパッケージ②就学前教育・保育の充実では、親目線からすると、質の高い保育を提供してくれるという安心にもものすごく繋がると思いました。一方で、保育士目線というか、これまで話が出てきた目線で言うと、そのしわ寄せが保育士に來たりするので、働いている人にしわ寄せが行くのはちょっと違うよねって話も前も出ていたと思います。働く人も勇気が持てるような、施策を見た時に何かがあるとすごく良くなって思いました。

○（事務局）

この概要に書ききれず申し訳ありません。保育士が長浜で働いていただくために、いろんなインセンティブ制度を幼児課で実施しておりまして、他の地域と比べていただいても長浜で働きたいと思っていただけるような、そういったサポート体制も現在プロジェクトとしては考えておりますので、そういったところも示していければと思います。

○（委員）

アプローチに関して大人の目線が少ないのかなと思います。こどもに関わっている自分が好きだ、みたいな。例えば、こどもまんなか社会に関して、関わっている自分が好きだとか、楽しんでいるみたいな感じの大人の項目も入るといいのかなと。それぞれのアプローチを、ちゃんと大人、周囲の社会も参画してやっていこうというような感覚になるかと。例えば、安心、成長、希望、応援みたいな感じにして、周囲の社会の指標みたいなのも1つの方法なのかもと思いました。

また、長浜が好きということについては、こどもの捉え方によって視点が変わると思います。小学生にとっては自分の家族くらいが長浜になっていて、家族関係が良かったら好きだと言うかもしれないし、中学生や高校生になるとまちの利便性かもしれない。言葉選びについては大事にできると思います。

○（委員）

施策の方向性の中にも、関わる大人が生き生きと楽しく活動できているみたいな、そういう文言もどこかにあるといいのかなと思いました。

○（議長）

とても素敵ですね。ご質問やご意見が全部、やっぱりこどもだけではなくて、大人も、という視点が入っているのが、すごく新鮮な感覚です。こういう理念って大事だっていうのは改めて感じます。

○（委員）

滋賀県でこども条例を制定されようとしています。県の条例は非常に難しい。長浜市の案は非常にわかりやすいので、実際にやってみようというか、やれるんじゃないかと気持ちにさせて

くれるのは非常に素晴らしいと思います。イラストにもっとお年寄りの絵も入れてほしいです。なぜお年寄りにこだわるかと言いますと、高校の総合学科で福祉課程がありまして、介護福祉士を目指す生徒が毎年数人います。彼らから話を聞いていると、仕事をして、こんなに毎日ありがたいと言ってもらえる仕事は他にはないので、やりがいがあります、と言ってくれる。お年寄りも頑張っておられるので、ぜひドリームマップにお年寄りを入れてほしいと思います。

○（委員）

おっしゃってくださったおじいちゃんおばあちゃんの姿がもっと見たいなっていうのは強みだと思います。子育てはおじいちゃん、おばあちゃんがいるからこそ、こどもたちも元気に過ごしているんだよということが、やはりイラストからもわかったらいいなと思います。応援の枠があるいろいろな支援をしている方も入ると思うので、応援がどこかのアプローチの中に入るといいと思います。今までの会議を通して、若者が長浜のことを知らないとか、人を知らないとか、企業を知らないっていうのがやはりベースにあったので、指標に長浜の魅力を知っている割合や、素敵な人や企業を知っている割合にできるといいと思います。また、ドリームマップに世代を超えた友人ができるとか、楽しんで働いている人のイラストを追加いただいたのですが、施策の主な取組の中に、大人と接触する機会が少し見えにくいと思いました。

○（委員）

成長のアプローチの説明に「今の自分が好きなこども若者が増え、新しい自分にチャレンジできる」とあるので、整合性と言いますか、チャレンジしていく自分といったところを成長に入れて、チャレンジして自信を得ていくようにできると良いと思います。

○（議長）

評価指標は今ある指標を令和11年度にも使うことになりますよね。令和5年、6年になかったものを新たに設けても意味がないと言いますか。

○（事務局）

そうです。今の基準の数値がわかる項目を設定したいと考えています。

○（議長）

皆様のご意見を踏まえて、一度指標を洗い直してもらって、精査していただくといいですね。新たに作ることはできないでしょうが。

○（委員）

せっかく読みやすいものを作っているのだから、KPIという言い方も非常に固い気がしまして、例えば、長浜スマイルポイントみたいな、NSPみたいな表現にしてもいいと思いました。笑顔っていうのは最後やはり目指すべきポイントなので、長浜スマイルポイントみたいな。

○（委員）

行政ではPDCAサイクルとOODAループのハイブリットは結構難しいと思います。やはり時代が変わって5年後となるとだいぶ変わっていくと思うんですが、時代に即したOODAループの考え方は取り入れづらいと思います。予算的なところも前もって決めるとか、そういうこともあるので、かなり難しいんじゃないかと思うんですけど、フレキシブルな対応をできるような枠組みっていうのが行政でできるものでしょうか。

○（事務局）

OODAループの1つの事例としまして、えきまちテラス長浜に高校生や大学生の居場所として、ittekiを設けております。当時、高校生たちから放課後の居場所がないという意見を聞いていたものを、前年度に予算はありませんでしたが、試しにやってみようということで、数か月運用しましたら、高校生たちの評価がとても高かったので、その実験的な期間を延長して、今年度は本格的に運用しているという例がありまして、行政は不得意ですがそういったものをイメージして、

臨機応変にチャレンジしていきたいと考えております。

○（議長）

やはりPDCAはすごくチェックに時間がかかってしまうので、OODAループを意識することを明記していただけても本当に意味があると思います。

○（委員）

施策の方向性に小学校1年生までとありますが、やはり小学校や中学校の数年間もとても大事な時期だと思います。こどもが通う小学校は図書館が小さいです。児童数の割にとっても小さい。難しい部分もありますが、小学校1年生までというより、義務教育のところも言葉として入っているといいと思います。また、大学に外に出て、もう1回帰ってきた時に就職したい場所があるってということも1つですけど、自分のこどもを育てたいという環境を整えていくこともとても大事なのかなと思いました。

○（事務局）

小学校1年生までというのは、国の施策の中でも、生まれる前から100か月というのはこどもにとって非常に大事な期間だということが挙げられておりまして、この100か月という就学前と小学校に入学するまでの接続をしっかりとやりますよという姿勢を見せていきたいなということで、表現として使っております。

○（事務局）

では次はどうするんだということで、教育委員会に繋いでいくとか、地域の方と相談するとか、そういうきっかけにできるようなことがこの計画の中に入っていければいいなと考えています。教育委員会に別の計画があるので、連動しながら、整合性を取りながらこの計画も進めなさいってことがありますので、いただいた意見を大事に使えるように行政の中でも連携したいと思っています。

○（委員）

「数字で見る取り巻く状況」で、こどもの貧困率は全国データから引用されているようですが、長浜のデータはないのでしょうか。

○（事務局）

その他の項目は全て長浜のデータですが、貧困率は滋賀県や長浜の単位では出ていないので全国のデータ採用しております。

○（委員）

5年間で減少と何か所か書いてありますが、この5年間はいつを基準にしてからの5年間になりますか。

○（事務局）

直近の数値から5年前と比べて、という表現になっています。令和6年に取っている数値もありますし、令和3年まで遡らないとない数値もあります。国勢調査は5年に1度の数値となり、そこからも引用しています。

○（委員）

父親の育児休業取得率は前回から14.3ポイント増加ということは、前回は0.4%ということですか。

○（事務局）

そうです。とても低い数値でした。これはアンケート調査で答えていただいた数値になります。

○（議長）

ではこれまでのご意見を基に素案をもう一度検討していただいて、次回以降どうなりますか。

○（事務局）

本日いただいたご意見に合わせて、次長職員で構成することも若者政策推進本部会議の幹事会を先週開催しまして、そちらでも意見をいただいているところです。これらの意見を反映したものを、部長職員で構成することも若者政策推進本部会議でご報告します。また、12月の市議会においてパブリックコメントを実施する段階の前の計画案をお諮りする予定です。それまでには、もう一度、委員の皆さまに確認いただけるような機会を設けたいと考えております。

<議事(2)その他>

○（議長）

委員の皆さまにご提案なのですが、計画のタイトルが「（仮称）長浜市未来こども若者計画」で「仮称」とあります。これからパブリックコメントや議会を通っていく中で、もうそろそろ「仮称」を取ってもいいのではないかなと思います。以前は、子ども子育て支援事業計画という名称が一般的でした。それでこども計画を作ることになって、ずっと仮称の付いたタイトルで長い間来ております。どうですかね、仮称を取ってもよろしいですか。

（各委員から異議なし）

はい。では、今後は市役所内や会議、議会などでお諮りいただくときは仮称を取っていただくということで、計画のタイトルを「長浜市未来こども若者計画」にしたいと思います。ありがとうございます。もう時間が来ておりますので事務局にお返しします。

○（事務局）

チラシを委員の皆さまに配布させていただいております。子育て応援アプリを10月1日からリニューアルいたしました。アプリは「ながスマ」というタイトルになっておりまして、計画のキーワードにもあります「笑顔」も取り入れまして、情報をスマートに届けて、みんなの笑顔が広がるようにということで命名させていただきました。以前のアプリにない機能としましては、予防接種のAIスケジューラー機能や他言語の翻訳機能。また、こどもの成長記録をアプリに登録できますし、遠方におられる祖父母の方とも共有できるような、新たな機能も追加しておりますので、皆さまもぜひご利用いただきたいなと思います。

○（委員）

長浜Cheer for子育ての活動の中で、こどもと一緒に何をしよう、みたいなことを昨年みんなで考えるワークショップを実施しました。ワークショップで出てきたのは、こどもと防災というキーワードでした。こどもの防災って言うと、女性と防災とか家族で防災みたいのが最近やはりキーワードになっていますので、こどもを中心に置きながら、防災とファミリーフェスを企画しております。こどもも家族も喜べるような内容を計画していますので、委員の皆さまに広げていただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

<次第4．閉会>

○（事務局）

西川会長、円滑な議事の進行を誠にありがとうございました。また、委員の皆さまにおかれましてもたくさんご意見をいただきましてありがとうございます。

閉会にあたりまして、未来創造部未来こども若者局村崎局長からお礼をお申し上げます。

○（村崎局長）

本日はいろんなご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。この計画を作るときに、他市のやり方とか、今までのやり方で作る方法もあったのですが、7つの個別計画を含んだものを一体どうやって作ればいいのかだろうということが、私たちの悩みもありまして、こういうような新しい形で進めさせていただきました。私たちのこのチャレンジを皆さま方が本当に応

援してくださり、今は本当に一緒に作り上げていける大切な仲間だと。本当に大切な方々、一員だと思っております。計画の形も本当に他市に比べて違う新しい形ということで、長浜らしさが出ているものになりました。本来でしたら本編の180ページぐらいのものをこの場で見ていただいて、この文字は、ここは、というご意見をいただきますが、そこはこちらにお任せいただいて、本日はこの大事な部分をポイントにご意見をいただいた形になりました。いただいたご意見を修正させていただいて、また書面等でご意見いただくような機会を作りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。この後は、このドリームマップを使って、子どもたちにどう伝えていくかという流れに入っていきます。ぜひ引き続きお力添えいただきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

○（事務局）

次回の第4回の会議につきましては、来年の2月の月上旬頃を予定しております。パブリックコメントを12月中旬から1月中旬まで約1か月実施します。大人のパブリックコメントと、こども若者からもパブリックコメントをいただいて、その意見を反映させた計画の最終案を2月上旬の第4回の会議で委員の皆さまにご確認をいただきたいと思いますと考えております。また、先ほど局長が申しあげました、ドリームマップを反映させました分かりやすい概要版を充実させていきたいと考えておりまして、その概要版を第4回の会議でお示しできればと考えております。

次回の会議日程につきましては、委員の皆さまにはなるべく早い時期にご案内したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、以上を持ちまして第3回長浜市未来こども若者会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以上